

認知症施策進捗管理表 (R6-R8)

項目	取組名	取組の目的	リーダー	R6		R7		R8		第9期計画指標
				計画	実績	計画	実績	計画	実績	
普及啓発・本人発信支援	認知症サポーター養成	認知症について正しい知識をもち、できる範囲で見守りや支援を行う人を養成する。	事務局	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校 578人 中学 希望校 72人 三好高校 279人 東海学園大学 368人 職域・地域一般 8か所 157人 合計 1454人 R7.2.10時点	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 トヨタ自動車社員 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校623人 中学 希望校116人 三好高校270人 東海学園大学0人 市職員37人 職域●団体●●人 地域●団体●●人 合計 ●●●人程度	小学5年生 8校 中学 希望校 三好高 東海学園大学 市職員 職域 希望団体 地域 希望団体 合計 1,500人程度 ※小学校調整と市職員向けは市が調整、その他は事務局調整とする。	小学5年生 8校●●人 中学 希望校●●人 三好高校●●人 東海学園大学●●人 市職員●●人 職域●団体●●人 地域●団体●●人 合計 ●●●人程度	●認知症初期集中支援チーム利用件数 ⇒12件/年 ●チームオレンジ設置数 ⇒1チーム ●認知症サポーター養成講座受講者数 ⇒1,500人/年 ●一般高齢者における認知症の相談窓口を知っている人の割合 ⇒40% ●本人ミーティング参加人数 ⇒10人
	登録キャラバン・メイトの活動支援	2人の既存活動者が小学校でひとりとして講師として活動できるようにになる。また、新たにキャラバンメイトになった人が活動できる。	事務局	・既存2人が小学校で希望数できるように日程調整する。 ・県主催の講座を受講し、新たにキャラバンメイトになった人の意向を確認し、希望にあった活動を支援する。	・既存2人が小学校で活動できるように日程調整した。 ・キャラバンメイト養成講座受講者に認知症サポーター養成講座を見学してもらい、来年度から活動できるように資料を配布した。	・新しい認知症観の普及に資する講座内容に改め、伝え方を改めて新しい認知症観を伝えられるように支援する。 ・小学校版は、最初に市職員が担い、録画して動画資料とともに、毎回振り返りを行う。	・新しい認知症観の普及に資する講座内容に、小学校版、一期一版を改良した。 ・小学校版は、市職員が2校実施し、他6校を計5人のメイトで実施した。			
	7/27(水)～9/1(土)期間における普及啓発	認知症について幅広く知ってもらい、関心や正しい理解を持つことができる。当事者の声の発信の機会を創出できる。	みなよし	・9月の7/27(水)～9/1(土)期間に、ライブで認知症のブースを設置する。 ・本の選定に当たっては、当事者発信を考慮する。 ・可能であれば当事者家族経験者の協力を得る。	・9月の7/27(水)～9/1(土)期間にライブで認知症のブース設置した。 ・waraukadoの参加者に作品作成、代表に当日の設営に協力してもらった。	・9月の7/27(水)～9/1(土)期間に、ライブでブースを設置する。 ・本の選定は、当事者発信を考慮する。 ・プロジェクト縁の事例を見える化し、ブース内で掲示する。	・9月の7/27(水)～9/1(土)期間に、ライブでブースを設置した。 ・本の選定は、当事者執筆も含めて選定した。 ・プロジェクト縁の事例をポスターにして、ブース内で掲示した。	・9月の7/27(水)～9/1(土)期間に、ライブでブースを設置する。 ・本の選定は、当事者発信を考慮する。 ・プロジェクト縁の事例を見える化し、ブース内で掲示する。		
	認知症ケアパスの内容充実	認知症の人やその家族の使い勝手を考慮した内容に改善し、認知症の人やその家族が望む情報を入力しやすくなる。	みなよし	・R7版の作成に当たっては、ページ構成の見直しを伴わない軽微な変更を行う。 ・デジタル化社会に対応したケアパスとするため、ホームページへの掲載による情報発信を行う。 ・本人ミーティングの進捗をみながら、可能であればケアパスについて意見を収集する。	・デジタル化社会に対応した冊子とするため、ホームページを二次元バーコードで掲載した。	・R8版は、軽微な変更とする。 ・引き続きDX推進の観点からホームページに掲載する。 ・内容の検討に当たっては、当事者に見てもらい、意見をもらって、校正に反映させる。	・R8版は、軽微な変更。 ・引き続きDX推進の観点からホームページに掲載する。 ・内容の検討に当たっては、みなよし地域の数人の当事者に見てもらった。また包括が普段聞いている声を参考に、当事者が読んで不快に思う認知症の容態の説明文を削除した。			
	本人発信支援	当事者の声を聴く習慣を作り、当事者の参加支援につなげたり、各種施策に活かすことができる。	おかよし	・デイサロンえんがわで行っている試行の本人ミーティングを継続し、当事者から話を引き出す手法を試行錯誤する。 ・推進員が声をヒントに参加支援ができることは理想的ではあるが、デイサービスのスタッフが普段の活動により参加支援が行えるようにすることを目指す。	・R7年1月17日デイサロンえんがわで「みなよし市における本人発信支援～地域共生社会の実現に向けて～」というタイトルで説明会をスタッフに実施した。 ・えんがわでモデル的に声の収集に取り組み始めた。	・えんがわでモデル事業として始めた取組の名称が「プロジェクト縁」と決まり、デイサービスえんがわの協力も得られることから、声を起点に実践につなげる事例を増やす。 ・事例は、可能な限り動画や写真で記録に残し、発信できる準備をする。	・プロジェクト縁として、えんがわのみならず、えんどう、突み、まんまる、ファミリアが加わり、本人の活躍事例を積み上げた。 ・写真や動画で記録を残し、写真を活用して講演会で発表した。			

医療・ケア・介護サービス・介護者への支援	認知症地域支援推進員の資質向上	認知症地域支援推進員が本市に必要な地域支援、個別支援について学べる機会を確保し、各種取組が認知症の当事者視点で推進できるようにする。	全推進員	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに推進員に配置される人は、必ず新任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。 ・経験を有する推進員は、現任向けの東京センターが主催する推進員研修を受講する。 ・愛知県が国立長寿医療研究センターと協働で開催する研修に参加する。 ・愛知県が提供する研修プラットフォームの必須講座を6月までに受講する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京センター主催の推進員研修に2人受講した。 ・愛知県と国立長寿医療研究センターが行う研修に推進員が参加した。 ・愛知県が提供する研修プラットフォームの受講を行った。 	R6と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・東京センター主催の推進員研修に8人受講した。 ・愛知県と国立長寿医療研究センターが行う研修に推進員が参加した。 ・愛知県が提供する研修プラットフォームの受講を行った。 			
	認知症初期集中支援チーム	認知症の人又はその疑いのある人、家族に早期に診断や受診支援を行い、本人が望む生活の継続を支援する。	医介連携担当者	<ul style="list-style-type: none"> ・チームに支援を求めるケースの基準を遅くとも8月までに決定する。 ・チーム員の異動者が必ず発生することを前提に、伝達研修のあり方を6月までに決め、異動者に受講を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4月に認知症の相談でDASCが31点以上だったケースはチーム員会議の相談に挙げるという基準を設けた。相談実績15件 ・伝達研修のあり方を4月に整備した。異動者2人へ受講動員し、6月までに受講してもらった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・DASC31点以上の相談を継続し、その他困難ケースも相談ケースとしてチーム員会議に挙げる。 ・国研修、伝達研修により資質向上を図る。 ・ケアマネ向けに事例を紹介する等によりチーム活動の周知活動を行う。 ・包括職員の異動が多いことから、チーム活動について理解を深める取組を行う。 				
	認知症疾患医療センターとの連携	トヨタ記念病院が運営しているセンターとのつながりを通じて、個別支援、地域支援を展開できる。	全推進員	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症疾患医療センターが開催する研修に参加する。 ・必要時、個別ケースで相談する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の認知症疾患医療センターの研修に推進員が参加した。 	R6と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の認知症疾患医療センターの研修に推進員が参加した。 			
			市	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症疾患医療連携協議会の構成員として、関係機関との連携体制構築を進めるため、会議に出席する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の認知症疾患医療連携協議会に出席した。 	R6と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・2月開催の認知症疾患医療連携協議会に出席した。 	R6と同じ		
	認知症カフェの普及	必要な人が認知症カフェを利用できるようにする。	市なかよし	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続する。 ・9月の図書館ブースを活用してPRを継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 9月の図書館ブースにチラシを置き、各包括の運営する認知症カフェのPRを継続した。 	R6と同じ	<ul style="list-style-type: none"> ・市広報誌の「認知症カフェ」コーナーの掲載を継続した。 	R6と同じ		
認知症カフェの開設支援	市内に特色の異なる認知症カフェが増えることで、市民の多様なニーズに対応した認知症カフェが提供できる。	市なかよし	<ul style="list-style-type: none"> ・喫茶を有する場所で新たな認知症カフェが開設できるように働きかける。 ・認知症カフェ開設マニュアルを活用し、開設支援を行う。開設支援は、マニュアルの使い勝手の検証機会でもあることから必要時は随時改定を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症の学びの場として黒笹町で新規認知症カフェの開設1件。R6年12月から1回開催。開設時マニュアルを活用、使い勝手については開設後3カ月であるため検証中。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに立ち上がったぼかばか、ふくろうのカフェの支援を行う。 ぼかばかは喫茶店開店のため、利用者の継続先としてふくろうに合流できる流れを作る。 ・にここ。オリーブは今後のあり方を検討する。 ・みなよし地域にカフェがないことから、主催できる人又は団体を地道に探す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・9月までぼかばかを開催し、以後はふくろうを案内した。 ・自走するカフェを目指して、当事者のニーズ把握のための調査を行った。 ・安立荘と協働していた回想法事業が終了するため、後継としてカフェ等の形式で継続できないか打診した。 				

認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援	チームみどりんオレンジ伴走支援	チームみどりんオレンジが安定的に活動できるよう必要な支援を行い、三好丘陵地域がグランドゴルフがいつでも続けられる地域にする。	またよし	・活動状況の把握方法を考える。 ・伴走支援用のステップアップ講座を開催する。	市役所職員が日程調整中。年度内にステップアップ講座実施予定。	R6と同じ	活動把握と活動支援を目的にみどりん参加者向けの講座を計画し、みどりんの都合により年度明けに開催を計画した。	R6と同じ	
	チームオレンジ立ち上げ支援	チームによる早期からの継続支援が地域の中で行えることで、認知症の人やその家族が安心して生活を送ることができる。	またよし	・チームが立ち上がるまでのステップアップ講座の標準的な内容を8月までに決める。 ・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。	今年度未だにチームオレンジ立ち上げマニュアル作成した。	・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。	希望する団体はなかった。	・希望がある地域に対して標準的な内容を参考に、受講者の意向も踏まえて内容を変更し、講座を開催する。	
	市域を超えた見守り体制の維持	行方不明等の対応において広域的連携を維持し、安心して外出できる地域を目指す。	市	・行方不明発生時にあいちオレンジネットワークを活用する。 ・あいちオレンジネットワークの安定稼働を協議する。	・あいちオレンジネットワーク活用数 2件 ・あいちオレンジネットワーク会議R6.12.26出席	R6と同じ	・あいちオレンジネットワーク活用数 ●件 ・あいちオレンジネットワーク会議R8.1.30出席	R6と同じ	
	見守り支援の充実	みよしささえ愛会議を活用して、本人の意向に踏まえた見守りにより安心して外出できる地域を目指す。	全推進員	・行方不明経験者や警察から情報提供があるケースは、原則全件みよしささえ愛会議により見守り体制を検討する。	行方不明の見守りに係るみよしささえ愛会議開催数 2回	R6と同じ	行方不明の見守りに係るみよしささえ愛会議開催数 ●回	R6と同じ	
		地域の見守り体制を強化するため、日常生活圏ごとに行方不明者捜索模擬訓練を実施し、住民が適切な行動が行えるようになる。	全推進員	・日常生活圏ごとに行政区、コミュニティ等の単位で訓練を実施する。	三好丘陵行政区20人参加 あみだ堂行政区 15人参加 三好上行政区 17人参加 東山行政区 20人参加	R6と同じ	三好丘陵行政区●人参加 あみだ堂行政区 ●人参加 三好上行政区 ●人参加 東山行政区 ●人参加	R6と同じ	
	成年後見制度等の利用促進	認知機能が低下しても安心して生活する上で必要不可欠な金銭管理や身上監護が適切に受けられる。	全推進員	・日常生活自立支援事業や成年後見制度の利用が望ましい個別ケースに対応する際に、本人の意向を尊重するため、可能な限りみよしささえ愛会議を開催し、後見センター職員等との十分な意見交換により適切な支援を行う。	権利擁護を目的とするみよしささえ愛会議開催回数 3回	R6と同じ	権利擁護を目的とするみよしささえ愛会議開催回数 ●回	R6と同じ	
	消費者安全の推進	消費者トラブルに遭遇しやすい高齢者が適切な情報提供を受け、トラブルの未然防止、早期解決を行うようにする。	市 全推進員	・地域包括ケア推進会議に内包している消費者安全確保地域協議会により市から情報提供、注意喚起を行う際に、広く推進員は周知に協力する。 ・消費者トラブルの際は、消費者相談センター等適切な機関に相談する。	・第3回地域包括ケア推進会議で消費者安全確保地域協議会に内容として市からの情報提供等を行った。	R6と同じ	・第3回地域包括ケア推進会議で消費者安全確保地域協議会に内容として市からの情報提供等を行った。	R6と同じ	